

介護専門職の総合情報誌

おはよう21

OHAYO21

11
November 2011

特集

Q&Aでわかる 食事ケア

在宅特集

訪問介護のひと工夫50選



好評連載

- 絵で見て学ぶ 高齢者のカラダ 杉山孝博
- 知っておきたい 拘縮の知識と予防法 田中義行
- 魅力ある介護職になろう! 阿部充宏
- ヘルパーのお悩み相談室 竹添敦子
- 命が命を生かす瞬間 藤川幸之助

おはようウォッチング

国立療養所「呂久光明園」(岡山県瀬戸内市)

第24回介護福祉士国家試験予想問題

介護過程

平成23年度ケアマネジャー試験対策講座

直前対策

苦手意識を取り除く

福祉と介護研究所 代表
●梅沢 佳裕

表 曖昧な記録の内容

項目	曖昧な内容
何を書くのか	利用者の様子とスタッフのかかわった内容が整理して書かれていない
どう書くのか	記録のルールにとらわれすぎて、スタッフ個々の観察視点が表現されていない
なぜ書くのか	記録を書くことで精一杯になり、活かすということが考えられていない

記録に苦手意識をもっている人は多いと思います。では、その苦手意識を取り除くためにはどうしたらよいのでしょうか。そして、記録のために大切なことは…?

なぜ苦手意識をもってしまうのか

最近ではペンで文章を書くことよりも、メールを打つ機会のほうが増えたと思います。メールであれば気軽に打てるのに、介護記録を書くということになると、どうも苦手で…という人も多いように感じています。

では、なぜ介護記録に苦手意識をもってしまうのでしょうか。介護記録にはあらかじめ求められる書き方があり、その通りに書かなければならない、というようにハードルの高さを感じているからではないでしょうか。そして、ハードルをクリアするため、さまざまな研修などに参加したり、参考書などを読んでみたりと、各自スキルアップを図るべく努力を重ねているというわけです。

しかし、書き方について「こうしなければならぬ」という決まりはありません。その中で、どのように書くべきかを模索しているのが現状です。そして、苦手意識をもっているスタッフの多くは、「文章を書くのが苦手」というよりも、**表の3つの項目が曖昧なことが原因で、書くのが億劫になっているのです。**

詳細については後々の連載で触れていきたいと思いますが、今回はそれぞれの項目について簡単に解説していきましょう。

曖昧な記録をなくすために

●何を書くのか

何を書くかというのは、記録の内容(情報)についてです。これは記録時間というよりも、



利用者とかかわっている時に、何を観察し、どんなことに気づけたかが重要です。

● どう書くのか

文章を書くことについての基本的なルールにしたがうことが大切です。たとえば、文法などの他に、介護の記録であるという特殊性を考慮して、一定のルールに沿って書くということです。これも介護記録のルールを理解することで、苦手意識は克服できます。

● なぜ書くのか

書く目的をしっかりとらえているかどうかどう

かが問われます。目的をとらえていないと、「こんなに忙しいのに、記録なんて書いていられない」となり、モチベーションが上がりません。また、目的もなく書いていると、他人からやらされているような感覚になり、記録内容が的外れになることも考えられます。

介護記録を書くことは、介護保険の指定を受けている事業所にとって、必ず行わなければならない義務です。これは基準省令に「サービス提供の内容を書くこと」という文言が記されています。そのことも、とても責任が重いことだと介護スタッフがとらえてしまう原因かもしれません。

「苦手だな」と感じると、何とか記録を仕上げるために定型の文章を準備したくなります。私は次のような文章をよく見かけます。

- ① Aさんがレク活動に参加しました。
- ② Aさんは、午前中は入浴をしました。
- ③ 食事は全量摂取でした。
- ④ 夜は安眠しており、異常はありませんでした。

これらは、いずれも定型文のようなもので、記録を書いている人にとっては楽なのだと思います。しかしよく考えてみると、人はみな別々のレク参加をして、別々の入浴習慣があり、食べ方もそれぞれ異なり、就寝スタイルも違います。記録が苦手という意識はどうすることもできないかもしれませんが、それに

よってただ文章で白紙を埋めなければ...という義務感にとらわれるのではなく、みなさんなりの視点で得た、みなさん個々の文章でよいのです。

大切なのは規則ではない

前述の曖昧になりがちな3つの項目をしつかりとらえているスタッフは、たとえ研修などに参加したことがなくても、結果として良い記録が書けていると思います。

介護記録に対して、あまり身構える必要はありません。書き方のルールや規則などを用意しすぎると、どうしても煩わしさが出てしまいます。それよりも記録には大切なものがあります。それは利用者との介護スタッフが出会ってからの軌跡を力タチにするということです。

介護は看護と違い、病気や障害を見る仕事ではありません。一人ひとりに注目することが大切です。その人の生活や人生は、その人だけのものです。利用者という「人」ととらえるところから、介護は始まるのです。これがスタッフの観察すべき部分であり、記録に残すべきことなのです。バイタル表や排泄チェック表だけでは、記録としては不十分です。ルールは後から。皆さんが最も書きたい、スタッフに共有してもらいたい情報を書いてみてください。それがイキイキとした利用者の様子だと思います。

● 次回は、「メモする習慣をつけよう」です。